

花粉症対策

花粉症患者は年々増加し、大気汚染との複合汚染も指摘されるなど、都民、国民の健康に関わる重要な問題となっている。国は実態把握、原因究明などの対策を実施している。都においても、花粉の少ない森づくり運動の展開、多摩産材の活用促進、利用しやすい治療法の開発など全庁体制で対策に取り組んでいる。

1 増加する花粉症患者

花粉症患者は年々増加し、国民的広がりを見せている。都などによるこれまでの調査では、次のような結果となっている。

平成8年度に大田区、調布市、あきる野市で実施した実態調査結果では、都民の約20%がスギ花粉症患者であり、それまでのほぼ10年で2倍に増加した。

17年度に八都県市で実施したアンケート結果では、約40%の人が「花粉症と診断された」「自覚症状から花粉症だと思う」と回答している。

2 花粉の飛散

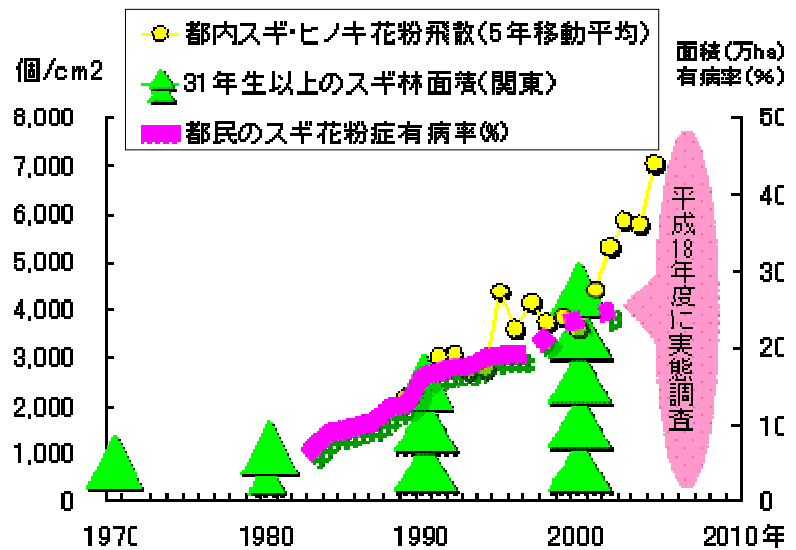
花粉を放出するのは雄花で、樹齢25年を超えるころから多くつけ、大量の花粉を放出する。花粉の大きさは0.3mmと非常に小さく、風に乗ると200km以上も飛散することがある。都内への飛散は2月中旬以降から始まる。

近年、都内へ飛散する花粉の発生源である、関東各県のスギ林全体の面積はほとんど増加していないが、伐採される割合が減少し、樹齢の高い木の割合が増加しているため、花粉の飛散量は増加してきている。

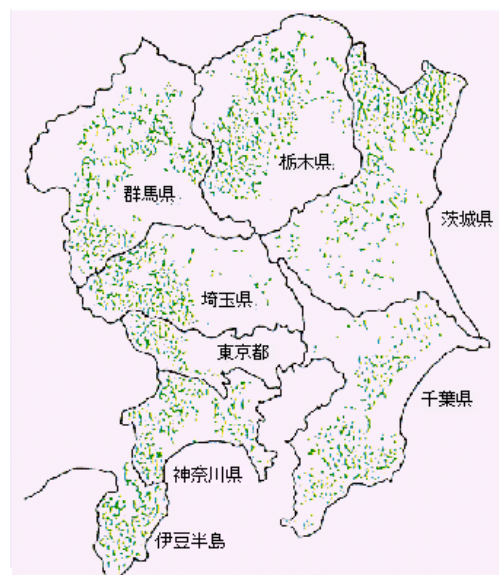
関東のスギ林の分布

出所：福祉保健局ホームページ

図1 スギ花粉症患者の有病率とスギ林面積



出所：福祉保健局ホームページ



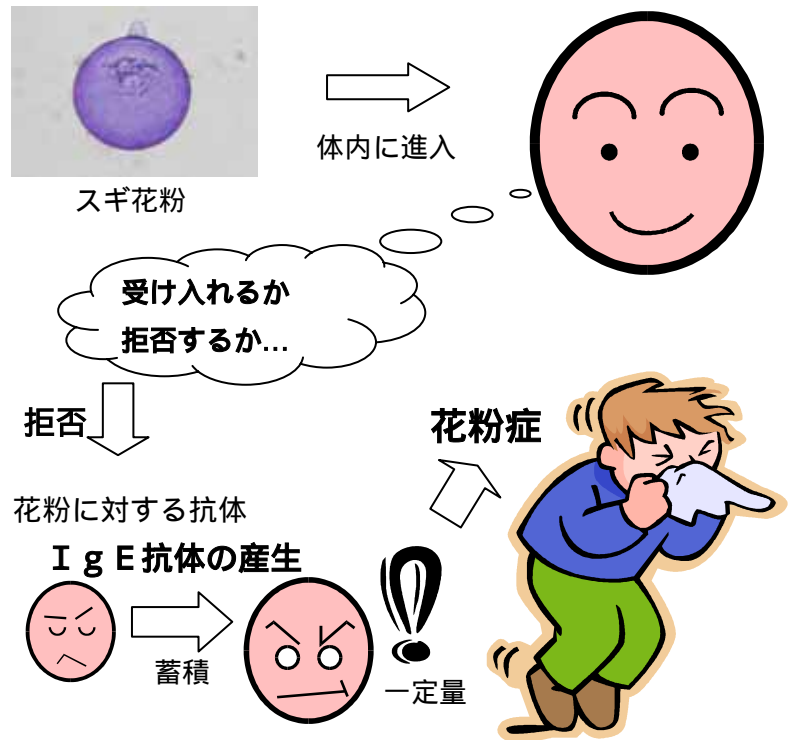
今年の花粉の飛散開始

福祉保健局は、都内12カ所にある花粉飛散観測地のうち、千代田区、杉並区、大田区の3地点で1月31日から花粉の飛散開始を確認したと発表した。1月中の飛散開始は昭和60年からの観測開始以来初めてで、昨年より2週間早い。

3 花粉症のメカニズム

花粉症は、スギ花粉をはじめとする空中の花粉によって発生するアレルギー性疾患である。体内に花粉などの異物(抗原)が入ると、それに結合する免疫たんぱく質(抗体)が作られ、免疫反応が起こる。

花粉との接触を繰り返すと、花粉に対する抗体(IgE)が増加し、一定量に達すると、アレルギー症状を引き起こす。鼻と目は外気に接して花粉に触れる機会が多く、免疫反応に関係の深い粘膜組織を持つため、花粉に対するアレルギー症状が起こりやすいと考えられている。



4 花粉症対策

国の取組(平成19年春における花粉症に関する政府の取組)

1 花粉及び花粉症の実態把握

花粉生産量の予測(農林水産省)	・雄花の着花状況判定による花粉生産量予測調査の実施 ・発生源地域を推定する調査の実施
気象の予測等(気象庁)	気象観測、気象予測データの提供、予測精度向上
花粉飛散量予測、観測(環境省)	・飛散開始前での総飛散量予測の情報提供 ・花粉観測システムによるリアルタイムでの情報提供 など

2 花粉症の原因究明

病態解明 (文部科学省、厚生労働省)	・免疫システムの基礎的・総合的な研究の実施 ・アレルギー疾患の臨床研究事業の推進
花粉症と一般環境(大気汚染等)との関係解明(環境省)	
研究拠点の整備(文部科学省、厚生労働省)	

3 花粉症の対応策

予防・治療法の開発・普及 (文部科学省、厚生労働省)	・アレルギーワクチンの開発・研究 ・アレルギー疾患の臨床研究事業の推進
無花粉スギ等の開発・供給拡大 (農林水産省)	・無花粉・少花粉スギ品種の開発 ・無花粉スギの供給体制の充実、少花粉スギ苗木の供給拡大
広葉樹林化や雄花の量に着目した間伐等の推進(農林水産省)	
花粉症に対する適切な医療の確保(厚生労働省)	・診療ガイドラインの周知徹底 ・医療機関向け専門相談窓口の開設
花粉及び花粉症に関する情報の提供(厚労省、農水省、環境省)	・花粉症関係サイトの相互リンク ・都道府県保健師職員等を対象とした研修会の実施 など

都の取組

東京都花粉症対策本部の設置（平成17年11月～）

総合的な花粉症対策を推進するため、全庁体制を整備
（副知事を本部長に知事本局ほか13局で構成）

花粉の少ない森づくり運動の展開

花粉の少ない森づくり募金
（平成18年4月～）

募金箱、電話による募金の実施
用途 ・樹齢30年以上のスギの計画的な伐採
・花粉の少ないスギ等の植樹

森づくり支援倶楽部
（平成18年10月～）

花粉の少ない森づくりへの継続的なサポート、多摩の森林に関する理解促進のためのファンクラブ
（個人、企業対象）

企業の森
（平成18年10月～）

企業、団体が森林所有者等と協定を締結し、企業などの協賛により、花粉の少ない森づくりを推進
（企業、団体対象）



平成18年4月に行われた
花粉の少ない森づくり運動開始式

出所：東京都花粉症対策本部ホームページ

多摩産材（スギなど）の活用促進

とうきょうの森のいえ
（平成17年12月～）

東京の木・いえづくり協議会会員が建築に関わり、多摩産材を住宅に活用した場合、融資上の優遇等を受けられることができる制度

多摩産材の認証制度
（平成18年4月～）

多摩産材を利用したいというユーザーの声に応えるため、認証制度を創設



認証シール

総合的な花粉症対策(19年度重点事業) 産業労働局、環境局、福祉保健局、交通局

総合的な花粉症予防・治療対策

- ・舌下減感作療法の臨床研究を進め、患者が利用しやすい治療法の開発促進(平成22年度実用化目途)
- ・花粉情報をリアルタイムに提供するため、花粉自動測定・予報システムの開発

長期的な花粉発生源対策

- ・主伐の実施、花粉の少ないスギ等の植樹、伐採木材の利用拡大、針広混交林化の促進
- ・首都圏の鉄道・バスに導入されるPASMOを活用した募金など支援の新たな仕組みの実施
- ・八都県市共同で森林整備、地域産材の利用促進などの発生源対策の推進

花粉症の治療法

花粉症の治療

- ・対症療法・・・花粉症の各症状を抑える
～抗ヒスタミン薬の投与など **現在の花粉症治療の中心**
- ・根治療法・・・花粉症を治癒させる
～減感作療法（皮下注射により体内にアレルギー物質を入れ、アレルギー反応を起こさない体質に変える）
2年以上の通院が必要、医療機関が少ないため普及していない



「舌下」方式は欧米では認められている方法で、自宅でも行うことができることから、皮下注射法に比べ、通院回数が少なく苦痛の少ない方法として、普及が期待されている。

花粉症の予防

花粉を吸い込む量を減らすことで花粉症の発症を予防できる。また、発症後でも症状を軽減させるのに有効である。

花粉飛散時期の生活の心得

風邪を引かない



アルコールは控えめに



タバコは控えめに



外出するとき

メガネ、マスク、帽子などで花粉が目や鼻に付かないように注意する。

花粉をよく払いおとしてから室内に入り、うがい・手洗い・洗顔を行う。

マスクの効果

	鼻内花粉数
マスクなし	1848
通常のマスク	537
花粉症用マスク	304

メガネの効果

	付着花粉数
メガネなし	29
通常のメガネ	9.8
防護カバー付メガネ	1.8

素材による花粉付着率

	付着花粉数
羊毛	980
化繊	180
絹	150
綿	100

綿を100とした比率

清掃・洗濯・布団干し

花粉は一般的に午後多く飛散するといわれているため、清掃などは朝早く行い、昼間は窓の開け閉めを極力少なくする。

洗濯物はできるだけ室内に干す。

布団は布団乾燥機を使用する。外に干す場合は、掃除機で花粉を吸い取る。

出所：福祉保健局「平成19年版花粉症一口メモ」

5 花粉症の根絶に向けて

今後、花粉の飛散を減少させるには、全国の発生源に対する長期的な対策が必要である。各自治体のみでの対応には限界があり、スギ林の広葉樹林化や間伐などの森林整備に対する補助事業の創設、植え替えの促進と国産材の公共施設や公共事業での利用促進、予防・治療対策の推進など、国において広域的な対策を行うことが求められる。